

検出された遺伝子組み換えトウモロコシ

「スターリンク」の問題点

熱に強く分解されにくい

市民グループ「回収を」

安全性が確認されていない米国の遺伝子組み換え(GM)トウモロコシ「スターリンク」が市販の食品から見つかった。これまで遺伝子組み換え作物は安全とされ、輸入されてきたが、今回は政府が米国内に輸出中止を求めると、これまでは異なる対応を見せている。何が問題なのか。【小島 正美】

10月下旬、市民団体「遺伝子組み換え食品いらない！キャンペーン」の調査で、スターリンクは、フラン

キーキ材料のコーンミール スのバイオ会社「アベンテ

から「スターリンク」が検出 イス社」が開発し、害虫を

された。すでに日本では大

豆、トウモロコシなど計28

品目のGM作物が、厚生省

によって認可され、輸入さ

れている。同様に農水省も

計28品目のGM作物を飼料

として認めてきた。ところが

がスターリンクはどちらの

タが不足している」と会社

◆事件の経過◆

厚生省は1997年12月、スターリンクの認可申請を受けて審査していた。

昨年6月、「アレルギー性がないといえるだけのデータが不足している」と会社

側は新たな試験結果は届いていない。

今年10月20日、厚生省は検査でスターリンクの食品は、未承認のGM作物は法的に輸入禁止となる。

殺すたんばく質をもっている。ほかに殺虫性たんばく質をもつGM作物はあるが、今回問題になったのは、スターリンクの殺虫性たんばく質は熱に強く、消化されにくい性質をもつため、人にアレルギーを引き起こす可能性が指摘されているからだ。

このため、米政府は家畜飼料には認可したものに「熱に強い」「分解されにくい」ため、両省の判

別は新たなデータの提出を求めたが、会社側からはまだ新たな試験結果は届いていない。

今年10月20日、厚生省は検査でスターリンクの食品は、未承認のGM作物は法的に輸入禁止となる。

安全性については、厚生省と農水省が①たんばく質のAMノ酸組成がアレルギーを起すたんばく質と似ているか②熱で分解するかどうか③酸やアルカリで容易に分解するか④分子量が小さいか―などを審査し、「問題ない」として認可してきた。しかし、スターリンクは「熱に強い」「分解されにくい」ため、両省の判

別は新たなデータの提出を求めたが、会社側からはまだ新たな試験結果は届いていない。

今年10月20日、厚生省は検査でスターリンクの食品は、未承認のGM作物は法的に輸入禁止となる。

の、食品への使用は認めず、10月には栽培の許可を取り消した。

◆今回が2度目

GM作物が作

るたんばく質の

安全性については、厚生省と農水省が①たんばく質のAMノ酸組成がアレルギーを起すたんばく質と似ているか②熱で分解するかどうか③酸やアルカリで容易に分解するか④分子量が小さいか―などを審査し、「問題ない」として認可してきた。しかし、スターリンクは「熱に強い」「分解されにくい」ため、両省の判

別は新たなデータの提出を求めたが、会社側からはまだ新たな試験結果は届いていない。

今年10月20日、厚生省は検査でスターリンクの食品は、未承認のGM作物は法的に輸入禁止となる。

断基準でも問題があるわけだ。スターリンクは今年4月にも、輸入された家畜飼料から検出(同キャンペーン調査)され、今回が2度目の検出。それだけに危機感を募らせる同キャンペーン代表の天笠啓祐さんは「政府はGM作物は安全で動物実験は不要と言ってきたが、長期の影響を見る実験はやはり必要」と指摘する。

また市民グループ「食政策センター・ビジョン21」を主宰する安田節子さんも「日本政府は米国内ならってスターリンク関連製品の回収措置を取るべきだ」と

話し、公的機関での安全性試験の必要を訴える。

これに対し、厚生省食品保健課は「スターリンクは他の組み換え作物に比べ、分解に時間がかかることは分かっていたが、アレルギーを引き起こすことが確認され

たわけではない。現状では回収命令を出す法律がなく、製品の販売自粛を指導している」と話している。

話し、公的機関での安全性試験の必要を訴える。

これに対し、厚生省食品保健課は「スターリンクは他の組み換え作物に比べ、分解に時間がかかることは分かっていたが、アレルギーを引き起こすことが確認され